



## セッション

---

この章では、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerで作成されたセッションの詳細について説明します。

リリース 3.10.1 以降、Cisco Nexus Data Broker (NDB) は Cisco Nexus Dashboard Data Broker に名前が変更されました。ただし、GUI およびインストール フォルダ構造と対応させるため、一部の NDB のインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/ Nexus Data Broker/ Nexus Dashboard Data Broker という記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

- [スパンセッション \(1 ページ\)](#)

## スパンセッション

[スパンセッション] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラーのスパンセッションの詳細が表示されます。

スパンセッションは、スパンデバイスのスパン宛先と NDB デバイスの入力ポート間のリンクです。スパンセッションは部分的に Nexus Dashboard Data Broker ネットワークの外部にあり、スパンの宛先からモニタリング ツール ポートへのパケットのパスを定義します。

票には次の詳細が表示されます。

表 1:スパンセッション

列名	説明
[Status]	<p>SPAN セッションのステータスは、デバイス/コントローラでのセッションの動作ステータスと、それに接続されている接続のステータスによって異なります。表示されたステータスアイコンをクリックすると、セッションと接続の詳細が表示されます。セッションステータスに影響を与える要因は、スパンの宛先、送信元（実稼働スイッチ/コントローラ）、入力ポート、モニタリング ツール ポート、ISL リンク（該当する場合）です。</p> <p>使用可能なステータスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑 - セッションは成功しています</li> <li>• 黄色 - セッションは部分的に成功しました</li> <li>• 赤 - セッションが失敗しました</li> <li>• 灰色 - セッションがインストールされていません</li> </ul>
スパン セッション	<p>スパンセッション名</p> <p>このフィールドはハイパーリンクです。スパンセッション名をクリックすると、右側に新しいペインが表示されます。ここでは、次の追加のアクションを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">スパンセッションの編集またはクローン処理（7 ページ）</a></li> </ul>
IP アドレス (IP Address)	スパンセッションの送信元（スパンデバイス）の IP アドレス。
スパン ソース	<p>スパンセッションの送信元ポートの数。</p> <p>(注) VLAN の場合、送信元ポートは ACI デバイスの EPG です。</p>

列名	説明
スパン宛先	セッションのスパン宛先の数。  (注) 複数のスパン宛先を持つことができるのはACIデバイスだけで、複数のスパン宛先がある場合、内部セッションが作成されます。これらの内部セッションは、送信元ポートの可用性に基づいて作成されます。  1セッションにつき、1つのスパン宛先だけがサポートされます。
接続 (Cisco TMS Connection)	スパンセッションに関連付けられた接続の名前。
作成者	スパンセッションを作成したユーザー。
最終更新者	スパンセッションを最後に変更したユーザー。

[スパンセッション] タブから次のアクションを実行できます。

- **スパンセッションの追加** — このアクションを使用して、スパンセッションを追加します。[スパンセッションの追加 \(3 ページ\)](#) を参照してください。
- **スパンセッション/宛先の同期** — このアクションを使用して、実稼働スイッチ (Nexus / Catalyst) またはコントローラ (APIC / DNAC) の情報を Nexus Dashboard Data Broker コントローラと同期します。スパンセッション情報がスイッチまたはコントローラで削除/削除された場合、このアクションにより、スイッチまたはコントローラのスパン宛先設定とスパンセッション設定が、Nexus Dashboard Data Broker コントローラの設定と同期されます。
- **インストールのトグル** — このアクションを使用して、スパンセッションをインストール/アンインストールします。スイッチ (Nexus/Catalyst) /コントローラにスパンセッションをインストールするか、Nexus Dashboard Data Broker コントローラから削除せずにスパンセッションをアンインストールできます。スパンセッションはスイッチ/コントローラからアンインストールされますが、将来の使用のために Nexus Dashboard Data Broker コントローラに保存されたままになります。
- **スパンセッションの削除** : 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして、削除するスパンセッションを選択し、[アクション]>[スパンセッションの削除]をクリックします。選択されたスパンセッションが削除されます。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。スパンセッションを選択するように求められます。

## スパンセッションの追加

この手順を使用して、スパンセッションを追加します。



- (注) Nexus スイッチには最大 4 つのアクティブなスパンセッションを追加できます。  
Catalyst スイッチには、最大 8 つのアクティブなスパンセッションを追加できます。

### 始める前に

スパンセッションを設定する前に、コントローラ/プロダクションスイッチを追加します。

**ステップ 1** [セッション]>[スパンセッション]に移動します。

**ステップ 2** [アクション (Actions) ] ドロップダウンリストから、[スパンスイッチの追加 (Add Span Switches) ] を選択します。

**ステップ 3** [スパンスイッチの追加 (Add Span Switches) ] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 2: スパンセッションの追加

フィールド	説明
スパンセッション名	スパンセッションの名前を入力します。
スパンソース	スパンソースを選択します。 <b>実稼働スイッチ</b> または <b>コントローラ</b> を選択します。 これらのそれぞれには、後続の行で説明する一意のフィールドセットがあります。
スパン送信元 : コントローラ	
コントローラ	[ <b>コントローラの選択</b> ] をクリックし、 <b>ACI</b> または <b>DNAC</b> のいずれかを選択します。 <b>ACI</b> ネットワークの一部である Nexus デバイスのスパンソースを作成するには、 <b>ACI</b> を選択します。 <b>catalyst switch</b> のスパンソースを作成するには、 <b>DNAC</b> を選択します。
リーフポート	(ACI コントローラのみ) 複数のリーフポートからのトラフィックを取得するリーフポートを追加するには、[ <b>リーフポート</b> ] を選択します。 [ <b>リーフポートの選択</b> ] をクリックします。表示される [ <b>リーフポートの選択</b> ] ウィンドウで、 <b>ポッド</b> を選択します。選択したポッド内のデバイスが表示されます。 <b>デバイス</b> と <b>デバイスのポート</b> を選択します。

フィールド	説明
EPG/AAEP	<p>(ACI コントローラのみ)</p> <p>EPG/AAEP ソースを追加するには、<b>EPG/AAEP</b> を選択します。</p> <p><b>[EPG/AAEPの選択]</b> をクリックします。表示される <b>[EPG/AAEPの選択]</b> ウィンドウで、<b>テナント</b>、<b>プロファイル</b>、<b>EPG</b>、および <b>EPG メンバー</b> を選択します。表示される EPG メンバーは、<b>ダイナミック</b>、<b>スタティック</b>、<b>AAEP</b> です。<b>ダイナミック</b>、<b>スタティック</b> を選択すると、メンバーの詳細は右側に表示されます。EPG メンバーとして <b>AAEP</b> を選択するときに、<b>[AAEPの選択]</b> 列で AAEP を選択します。</p> <p>(注) EPG インターフェイスは、すべてのポートが同じリーフ スイッチ内にあるときのみ機能します。</p> <p>EPG が複数のスイッチにわたる場合、すべてのリーフ スイッチで対応する SPAN 宛先を選択します。</p>
インターフェイス	<p>(DNAC に対してのみ)</p> <p><b>[インターフェイスの選択]</b> をクリックし、Catalyst switch とインターフェイスを選択します。</p>
VLAN	<p>(DNAC に対してのみ)</p> <p>VLAN ID を入力します。</p>
スパン ソース：実稼働スイッチ	
インターフェイス	<p><b>[インターフェイスの選択]</b> をクリックし、<b>[デバイス]</b> と <b>[ポート]</b> を選択します。</p> <p>選択されたデバイスとポートは、セッションで使用されます。</p>
VLAN	<p><b>[実稼働スイッチの選択 (Select Production Switch)]</b> をクリックして、デバイスを選択します。VLAN ID を入力します。</p> <p>VLAN ID と一致するデバイスがセッションで使用されます。</p>

フィールド	説明
方向 (Direction)	<p>デバイスのセッションソースポートのトラフィックを示します。</p> <p>これらのオプションの1つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 着信</li> <li>• 発信</li> <li>• 両方</li> </ul>
SPAN 宛先	<p><b>[スパン宛先の選択 (Select SPAN Destination)]</b> をクリックして、スパン宛先ポートを選択します。表示されるフィールドは以前の<b>[スパンソース]</b>の選択に基づいています。</p> <p>(注) スパン宛先ポートは、<b>入力ポートの追加</b>の手順を使用して以前作成されました。</p> <p>NDB デバイスに直接接続されている場合、ローカルスパン宛先を選択し、それ以外の場合はリモートスパンの宛先を選択します。リモートスパンの宛先は、Nexus スイッチにのみ適用できます。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、ACI で作成されたスパン宛先をリストします。</p> <p>Nexus SPAN セッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Nexus デバイス用に作成された ACI で作成された宛先をリストします。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Catalyst switch に対して作成されたスパン宛先をリストします。</p>

フィールド	説明
接続を適用	<p>セッションの接続を選択します。</p> <p>スパンセッションに既存の接続を関連付けるか、スパンセッションの新しい接続を作成できます。</p> <p>(注) セッションの一部であるすべてのスパン宛先もまた、モニタリングツールへの直接トラフィックへの接続の一部となるセッションの一部でなければなりません。</p> <p>ボタンをクリックして、スパンセッションへの接続の追加を有効にします。<b>[接続の選択]</b>をクリックして、<b>[接続の選択]</b>ウィンドウから接続を選択します。</p>

(注) EPG の場合 :

- EPG 選択の場合、EPG が選択されている場合、デフォルトでは、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、選択された EPG の静的またはダイナミックに設定されたインターフェイスの変更をリッスンします。変更がある場合は、スパンセッションに適用されます。Web ソケット接続は、証明書で保護されていません。イベントリスニングを無効にするには、`ndb/configuration` フォルダの下の `config.ini` ファイルに `enableWebSocketHandle=false` を追加します。
- APIC に新しい EPG メンバーが追加されたときに、設定された SPAN セッションの一部として新しく追加された EPG メンバーに一致する SPAN 宛先がリーフスイッチにない場合、Nexus Dashboard Data Broker はこのイベントを無視し、新しい EPG メンバーは Nexus Dashboard Data Broker に表示されません。

(注) スパン宛先の場合 :

スパン送信元の各リーフスイッチに、対応するスパン宛先が少なくとも 1 つあることを確認します。

**ステップ 4** **[スパンセッションの追加]** をクリックして、実稼働スイッチまたはコントローラにインストールせずに、作成したスパンセッションを追加します。**[スパンセッションのインストール]** をクリックして、作成したスパンセッションを保存し、実稼働スイッチまたはコントローラにインストールします。

## スパンセッションの編集またはクローン処理

この手順を使用して、スパンセッションを編集またはクローン処理をします。

スパンセッションの編集は、既存のスパンセッションのパラメータの一部を変更することを意味します。

スパンセッションのクローンを処理するという事は、既存のスパンセッションと同じパラメータを使用し、必要な変更を加えた新しいスパンセッションを作成することを意味します。スパンセッションを保存する前にその名前を変更してください。

### 始める前に

1つ以上のスパンセッションを追加します。

**ステップ1** [セッション]>[スパンセッション]に移動します。

**ステップ2** 表示されたテーブルで、セッションをクリックします。

新しいペインが右側に表示されます。

**ステップ3** [アクション]をクリックし、[スパンセッションの編集]または[スパンセッションのクローン処理]を選択します。

テーブルに表示されているパラメータを編集します。

表 3: スパンセッションの編集

フィールド	説明
スパンセッション名	スパンセッション名が表示されます。 このフィールドは、編集できません。
スパンソース	以前に選択したスパンソースが表示されます。スパンソースは変更できません。
スパンソース：コントローラ	
コントローラ	[コントローラの選択]をクリックして、 <b>ACI</b> または <b>DNAC</b> を選択します。  ACI ネットワークの一部である Nexus デバイスのスパンソースの作成のために、 <b>ACI</b> を選択します。 catalyst switch のスパンソースの作成のために、 <b>DNAC</b> を選択します。
リーフポート	(ACI コントローラに対してのみ)  [リーフポート]を選択して、複数のリーフポートからトラフィックをキャプチャするために、リーフポートを追加します。  [リーフポートの選択 (Select Leaf Ports)]をクリックします。表示される[リーフポートの選択]ウィンドウで、[ポッド (Pod)]を選択します。選択されたポッドのデバイスが表示されます。[デバイス]とデバイスの[ポート]を選択します。

フィールド	説明
EPG/AAEP	<p>(ACI コントローラに対してのみ)</p> <p>[EPG/ AAEP] を選択して、EPG/ AAEP ソースを追加します。</p> <p>[EPG/AAEPの選択] をクリックします。表示される [EPG/AAEPの選択] ウィンドウで、テナント、プロフィール、EPG、および EPG メンバー を選択します。表示される EPG メンバーは、ダイナミック、スタティック、AAEP です。ダイナミック、スタティックを選択すると、メンバーの詳細は右側に表示されます。EPG メンバーとして AAEP を選択するときに、[AAEP の選択] 列で AAEP を選択します。</p> <p>(注) EPG インターフェイスは、すべてのポートが同じリーフスイッチ内にあるときのみ機能します。</p> <p>EPG が複数のスイッチにわたる場合、すべてのリーフスイッチで対応する SPAN 宛先を選択します。</p>
インターフェイス	<p>(DNAC に対してのみ)</p> <p>[インターフェイスの選択] をクリックし、Catalyst switch とインターフェイスを選択します。</p>
VLAN	<p>(DNAC に対してのみ)</p> <p>VLAN ID を入力します。</p>
スパン ソース : 実稼働スイッチ	
インターフェイス	<p>スパンセッションの追加中に以前に選択したインターフェイスが表示されます。これらのインターフェイスを追加または削除できます。</p> <p>[インターフェイスの選択] をクリックし、[デバイス] と [ポート] を選択します。</p> <p>選択されたデバイスとポートは、セッションで使用されます。</p>
VLAN	<p>[実稼働スイッチの選択 (Select Production Switch)] をクリックして、デバイスを選択します。VLAN ID を入力します。</p> <p>VLAN ID と一致するデバイスがセッションで使用されます。</p>

フィールド	説明
方向 (Direction)	<p>デバイスのセッションソースポートのトラフィックを示します。</p> <p>これらのオプションの1つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 着信</li> <li>• 発信</li> <li>• 両方</li> </ul>
SPAN 宛先	<p><b>[スパン宛先の選択 (Select SPAN Destination)]</b> をクリックして、スペイン宛先ポートを選択します。表示されるフィールドは以前の<b>[スパンソース]</b>の選択に基づいています。</p> <p>(注) スパン宛先ポートは、<b>入力ポートの追加</b>の手順を使用して以前作成されました。</p> <p>NDBデバイスに直接接続されている場合、ローカルスパン宛先を選択し、それ以外の場合はリモートスパンの宛先を選択します。リモートスパンの宛先は、Nexusスイッチにのみ適用できます。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、ACIで作成されたスパン宛先をリストします。</p> <p>Nexus SPANセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、NX-OSデバイス用に作成されたACIで作成された宛先をリストします。</p> <p>スパンセッションをインストールするために、Nexus Dashboard Data Broker コントローラは、Catalyst switch に対して作成されたスパン宛先をリストします。</p>

フィールド	説明
接続の適用	<p>セッションの接続を選択します。</p> <p>スパンセッションに既存の接続を関連付けるか、スパンセッションの新しい接続を作成できます。</p> <p>(注) セッションの一部であるすべてのスパン宛先もまた、モニタリングツールへの直接トラフィックへの接続の一部となるセッションの一部でなければなりません。</p> <p>ボタンをクリックして、スパンセッションへの接続の追加を有効にします。<b>[接続の選択]</b>をクリックして、<b>[接続の選択]</b>ウィンドウから接続を選択します。</p>

ステップ4 **[スパンセッションの編集]** または **[スパンセッションのクローン処理]** をクリックします。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。